



造形 秋 田

NO.51 (平成26年度)

2015.3



秋田県教育研究会造形部会
秋田県造形教育研究会



平成26年度を振り返って

秋田県造形教育研究会

会長 芦原清巳

【第40回秋田県造形教育研究大会鹿角大会を終えて】

八幡平の紅葉が始まりかけた10月2日に第40回秋田県造形教育研究大会北ブロック大会を鹿角市で開催することができました。古くから鉱山の町として栄えた歴史ある地域であり、名所・旧跡や伝統文化の宝庫である北の大地で、県内より約70名の会員の参加を賜り、秋田県造形教育研究大会が大盛況に終わることができたことを心より感謝申し上げます。

大会テーマは第39回秋田県造形研究大会秋田大会から引き継ぎ、「生きる輝き、つくりだす喜び」のもとに4つの公開授業と6つの実践発表を行うことができました。花輪小学校と花輪第一中学校が授業会場となり、小学校では体育館を使つてのダイナミックな造形遊び（高橋麻衣子先生）や花輪ばやしの屋台を鑑賞する学習（成田吉美先生）、中学校では鹿角紫根染めの学習（関清志先生）や郷土の作家の作品鑑賞（佐藤好一先生）など地域の伝統文化や特色を生かした授業を展開し、大好評を得ることができました。子どもたちが、地域に根ざした題材に無心に取り組み、つくる喜びに没頭していた姿が印象的でした。

その後、会場を鹿角市交流センターに移し、講演会と研究協議会を行いました。記念講演では、大館市出身で元駐日英国大使館大使公邸総料理長 畠山武光 氏を講師に迎え、「英国大使館のデザート、想像と表現」と題しての講演を拝聴しました。数千種類に及ぶスイーツのデザインは、一つ一つが緻密で創造的であり、おとぎ話にでてくるようなドラマを連想させる作品でした。デザートの一瞬にかける職人の技は芸術的であり、「料理長とは夢を表現する仕事である」という言葉に感銘を受けました。研究協議会では、授業者の他に6名の実践発表者も加わり、大変中身の濃い有意義な会となりました。

この大会を開催するにあたり、会員が少ないにもかかわらず、準備・運営に万全の体制であたられました。鹿角市造形教育研究会を始め、北ブロックの会員の皆様には、改めて敬意と感謝を申し上げます。

【第55回秋田県児童生徒美術展を終えて】

秋田県児童生徒美術展において懸案であった立体作品の展示が、今年度より、復活することができました。今から7年前に展示会場を秋田市文化会館から旧秋田県立美術館に移した際に、展示スペースの関係から、一旦、立体の部の展示を休止しました。そして平成24年の新県立美術館のオープンに合わせ、立体作品の展示を復活させる計画で調整してきましたが、新美術館のオープンが遅れたり、展示会場が継続的に確保できなかったりなど、いろいろな条件が重なり、本研究会でも数年かけて慎重審議で熟慮してきたところで

昨年1月の臨時総会、5月の総会、7月の研究部会を経て、各郡市の総意を得て復活することができました。立体作品の展示が可能となった要因には、①県立美術館で継続的に開催できる見通しがついたこと、②各郡市の審査を通した作品を展示すること（以前は無審査）③美術展なのでジャンルは問わない等の理由が上げられます。ただし、平面・立体を合わせた入賞総数は、今までと変わらないことを条件に、各郡市ごとに作品募集や審査の仕方などの最終的な部分を一任しました。初めての場所で、立体作品も復活した展覧会となり、戸惑うところがあったり、不備な点もありましたが、新たな一步を踏み出すことができました。久しぶりの立体作品の復活によって、美術展自体の様相も変わり、会場も華やかになり、本来の図工・美術展の姿に戻ったような気がしました。

これまで歩んできた私たちの取り組みや活動は児童生徒の作品に必ずや反映されてきます。特に小学校の子どもたちにとっては、工作や立体造形は大好きな分野のひとつです。立体作品復活によって、子どもたちのさらなる可能性を引き出す機会になればと考えております。今回からの新たな児童生徒美術展を発信源とし、是非、平成28年秋田県造形教育研究大会横手大会、平成30年全国造形教育研究大会秋田大会へ向けての景気付けとしたいものです。

造形 秋 田

No.51



目 次

巻頭言

平成26年度を振り返って

各郡市造形教育研究会の活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

研究の記録

平成26年度 第40回秋田県造形教育研究大会北ブロック(鹿角)大会・・ 11

第59回東北造形教育研究大会岩手大会・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

第59回東北造形教育研究大会岩手大会に参加して・・・・・・・・ 22

全国&関東甲信越静地区 造形教育研究 山梨大会・・・・・・・・ 23

第55回 秋田県児童生徒美術展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

第55回 秋田県児童生徒美術展 話題作一覧(平面の部)・・・・ 26

平成26年度 秋田県造形教育研究会役員・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

表紙絵 カバさんの水遊び
さとう ふうか(四ツ小屋小学校)
裏表紙絵 グラン・ギニョール
長 沢 光(美郷中学校)

各郡市造形教育研究会の活動報告

組織 会長 木村 伸 (尾去沢中学校校長)
 副会長 金澤 裕子 (小坂中学校教頭)
 事務局 田中 繁子 (尾去沢小学校)
 会計 田中 繁子 (尾去沢小学校)

主な事業

平成26年度総会 (花輪第一中学校)

4/25

東北造形教育研究大会岩手大会 7名参加

7/30・7/31

第40回秋田県造形教育研究大会北ブロック大会

(花輪小学校・花輪第一中学校・鹿角市交流センター)

10/2

県児童生徒美術展鹿角審査会

12/8

(十和田市民センター)

・鹿角小・中・高合同美術展

1/17～1/21

・絵を見合う会

1/21

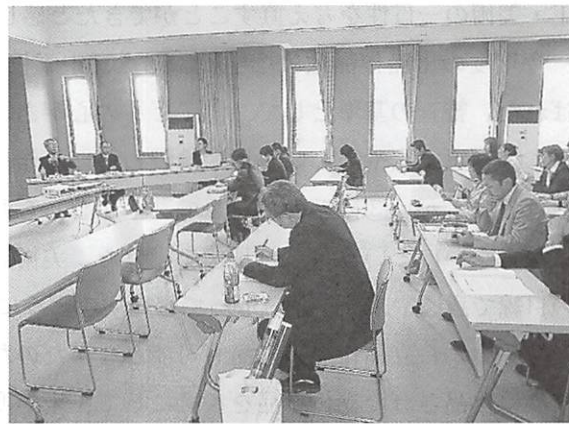
(十和田市民センターホール)

研究会の記録

- ・7月30日・31日に東北造形研究大会に7名の会員が参加した。10月に県造形教育研究会を控えていたこともあり、公開授業を参観し、授業展開の仕方や児童たちへ支援の仕方についての勉強させていただいた。また、会場には、児童たちの作品が展示され、その表現力に驚くとともに、指導の仕方も勉強させていただいた。
- ・10月2日に、花輪小学校、花輪第一中学校、鹿角市交流センターを会場に第40回秋田県造形教育研究大会北ブロック大会が行われた。会員が少なく、運営に支障をきたすのではないかと不安があったが、大館北秋田造形研究会の応援も得ながら、無事終えることができた。県内各地からお出でいただき、最終的に70名の参加となった。
- ・県美術展に向けて、十和田市民センターにて鹿角審査会を行った。今年度は、小中合わせて195点の出品数、そのうち、58点が優良賞となった。今年度から出品可能になった立体は小中合わせて4点出品され、うち1点が優良賞となった。多様な表現方法で、工夫された作品が多かった。



小学校下学団の授業の様子



中学校分科会の様子

組織 会長 永井 孝久 (山瀬小学校)
 副会長 石岡 ひな子 (城西小学校)
 本間 いま子 (鷹巣南小学校)
 事務局 佐々木 亜希子 (大館第一中学校)
 研究部 工藤 明美 (鷹巣中学校)
 会計 佐々木 由美 (比内中学校)

嘉藤 貴子 (合川中学校)

コリガン麻衣 (田代中学校)

山崎 真紀子 (鷹巣南中学校)

主な事業

大北造形研究会総会 (4/17)

秋田県造形教育研究会大会北ブロック大会への
 呼びかけ 実践発表及び補助 (10/2)

秋田県児童生徒美術展地区審査会
 素描集「北の造形」第47集 審査会
 (11/20)

第37回 絵を見て語る会
 素描集「北の造形」第47集発刊・配布
 (1/16)

研究会の記録

○秋田県造形教育研究会大会北ブロック大会への参加 実践発表及び補助

大会への参加を呼びかけ、多数参加することができた。大館北秋田地区からも4名が実践発表者として選ばれ、地域性あふれる題材や、対話を生かした鑑賞題材など、日頃の取り組みについての発表を行った。他にも大会補助員として受付や分科会の司会、記録などの仕事に携わることができた。時期的に国民文化祭や中学校の学校祭と近かったこともあり、発表者の先生方には難儀をかけたが、大館北秋田、能代、鹿角と北ブロック3地区が力を合わせて大会を盛り上げることができた。

○秋田県児童生徒美術展地区審査会

例年どおり学校や地域の文化祭等が落ち着く11月下旬に、秋田県児童生徒美術展地区審査会及び素描展「北の造形」の審査会を行った。学校事情で出席できる先生が例年より少なく、中学校の先生が小学校の審査に回るなどして審査を行った学年もあった。そのおかげで、小・中で身につけさせたい力を再確認し、図工・美術の一貫性を考え直すことができたと感じる。

今年度の出品作品数は小学校383点、中学校165点で、小学校116点、中学校49点がそれぞれ優良に選ばれた。審査の基準として、①子どもの心があふれているもの(自分の気持ちをいかに素直に表現しているか) ②創意工夫や新しい表現に挑戦している作品(その子ならではの表現・その子なりに工夫した表現がなされているか) ③のびのびとして勢いが感じられる作品(子どもの目の高さに教師の目をもっていかなければならない) という3つの基準を設けた。美術展はあくまでも児童・生徒が主役であり、我々教師は子どもの目線で意図や工夫を読み取って審査するように努めた。

今年度から立体作品の出品も可能となったのだが、出品数は1点にとどまった。今年度秋田県児童生徒美術展に出品された立体作品を参考にして、来年度の指導計画を練り直したり、立体作品を出品する計画を立てたりしていきたい。

組織 会長 佐々木 彰子 (二ツ井小学校)
 副会長 大高 洋子 (塙川小学校)
 会計監査 芹田 亨 (常盤中学校)
 事務局 渡部 悦子 (東雲中学校)
 理事 沼田 桃子 (能代東中学校)
 畠山 和子 (向能代小学校)
 田中 絵里奈 (二ツ井中学校)
 岩谷 修一 (八竜中学校)
 研修班 越前 芳広 (二ツ井小学校)
 田森 舞 (能代南中学校)

長浜 笑子 (能代第二中学校)
 田森 舞 (能代南中学校)
 越後谷 知子 (崇徳小学校)
 大山 祐子 (竹生小学校)
 小森 哉子 (藤里小学校)
 中村 紀幸 (下岩川小学校)
 芹田 亨 (常盤中学校)

主な事業

○夏季研修会「小・中・高連携による造形活動」 ストーリーからイメージを膨らませて 段ボールなどを使ったアンサー作品づくり 「はらぺこ あおむしくんは なにを食べたの? (2014夏)」 7/30
--

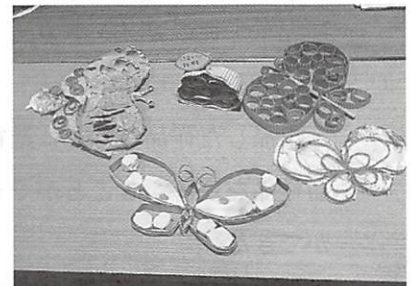
○授業研究会 能代市立浅内小学校 「うつつて 見つけて」 (小2) 9/17
○秋田県児童生徒美術展審査会 12/12
○能代地区高校美術作品展への出品協力 「小・中・高連携による造形活動」 2/13~2/15

研究会の記録

○夏季研修会 「小・中・高連携による造形活動」

高校教員によるワークショップに小中教員が参加する研修会は3年目となる。テーマは「ストーリーからイメージを膨らませるアンサー作品づくり—はらぺこ あおむしくんは なにを食べたの?—」である。高校生が制作した「リンゴ」をもとに、会員各自がイメージを膨らませて、あおむしとそのリンゴを食べて成長した「蝶」を段ボール等で制作した。

その後、各校で児童生徒に同様のワークショップを展開して造形した作品を持ち寄り、2月に行われる能代地区高校美術作品展では、高校生が小・中・高の作品群を展示構成して、「小・中・高連携による造形活動」のアンサー作品が展示される予定である。



【会員のアンサー作品「蝶」】

○授業研究会

能代市立浅内小学校にご協力を頂き、浅野教諭の指導による題材名「うつつて 見つけて」の授業研究会を提供していただいた。テーマ毎にグループになり、スパッタリングやクリアファイルの版、ローラーを使って大きな用紙に伸び伸びと制作していた。子ども同士で工夫を話したり、教えてもらったりする場が見られた。子どもたちが思いついたやりたいことを大事にして、想いが形づくられ、多様な広がりができる授業が展開された。



【授業風景】

組織 会長 鎌田 悟 (船越小学校)
 副会長 中川 努 (男鹿東中学校)
 事務局 伊藤 覚 (男鹿南中学校)

主な事業

造形部総会 (4/9)

男鹿市児童生徒美術展審査会 (11/26)

男鹿市児童生徒美術展 (11/27~12/10)

研究会の記録

(1) 研究主題 生き生きとした造形活動をめざして

(2) 活動の概要

① 活動の概要

今回の作品展は、立体も審査の対象となり、作品にも幅広い造形要素が見られた。昨年同様、作品に児童生徒のコメントカードを添付してもらった。コメントカードには、工夫した点・作品へ込めた思い等を記入している。

出品した作品をもとに鑑賞指導の研修を行ったが作品とコメントカードを並列することで、より一層作品を理解することができた。また、審査を交えながら作品を観るときのポイントを研修することができた。

翌日から男鹿市児童美術作品展をハートピアギャラリーにおいて開催した。ふるさとを題材にした作品も多く見られ、参観者の目を誘った。また、悪天候にもかかわらず、我が子の作品を一目見ようという参観者が多数訪れた。多くの作品を前にして、感慨を語る様子が見られた。



水族館「GAO」の白クマを題材にして

組織 会長	加藤 順子 (東湖小学校)	
副会長	佐藤 恵 (八郎潟中学校)	
運営委員	伊藤 晃 (八郎潟小学校)	菅原 恵 (五城目小学校)
	小林 博子 (五城目第一中学校)	近江 和佳子 (羽城中学校)
事務局	都留賀 津人 (天王南中学校)	

主な事業

・総会	4/16(水)	・運営委員会	6/4(水)
・夏休み造形教室	8/5(火)	・教科等研修会	11/5(水)
・子どもの絵を語る会	12/11(木)		

研究会の記録

- (1) 研究主題 よろこび・わくわく 新たな発見 ～キラリ感じてつくる子ども～
 (2) 活動の概要

① 夏休み造形教室

- ◆会場 五城目町野鳥の森
- ◆内容 木の実、木の枝などを活かした立体作品の制作
- ◆対象 潟上・南秋地区の小学生
- ◆所感 自然豊かな環境のもと、学校ではなかなか得られない子どもの興味を引く豊富な自然素材と充実した工具、造形部員のアドバイスがあり、子どもたちが材料から豊かに発想したり、発想を生かした作品作りを楽しんだりすることができた。

② 教科等研究会

- ◆会場 羽城中学校 美術室
- ◆講師 陶芸工房「花宵(かしよ)」
伊藤 久美子 先生
- ◆内容 陶芸実技演習
- ◆所感 粘土のこね方「菊練り」と、主に「紐作り」による作陶を行った。陶芸は造形部会の中でも習熟度等開きはあるが、専門家の指導のもと全員興味深く演習を行うことができた。釉掛けや焼成は工房に依頼したが、またの機会に期待を寄せたい。



③ 子どもの絵を語る会 (秋田県児童生徒美術展地区審査会)

- ◆会場 潟上市昭和公民館
- ◆内容 県児童生徒美術展の作品審査と、子どもの絵の見方研修
- ◆所感 会員相互の対話を通して、これまでの経験を生かしたり、会員自らの目を信じたりして審査を行うことができた。また、絵および今年度再開した立体作品のとらえ方や指導技術の情報交換など、審査の枠を越えた話し合いも自然になされた。

組織 会長 佐藤 一彦 (秋田北中学校)
 副会長 加藤 義昭 (川添小学校)
 加賀谷 政広 (雄和中学校)
 事務局 黒沢 淳 (泉小学校)
 三浦 直樹 (秋田北中学校)
 渡部 英明 (豊岩小学校)
 幹事 小林 さおり (御野場中学校)
 会計 伊藤 知佐子 (泉中学校)

榎 実和子 (外旭川小学校)
 小松 文子 (桜小学校)
 菊地 有希子 (大住小学校)
 工藤 圭文 (港北小学校)
 齋藤 未樹 (秋田東中学校)

主な事業

美術鑑賞研修会 MOA美術館名品展GOLD
 -黄金の茶室と日本美術の至宝-
 (秋田市千秋美術館/5月21日)

大森山動物園
 第37回 親と子のふれあい写生大会
 (大森山動物園と共催/7月26・27日)

秋田県児童生徒美術展 秋田市審査
 (秋田北中学校/11月29日)

クロッキー巡回展：市内各小学校
 (審査：港北小学校/12月26日)

研究会の記録

○全市一斉授業研究会 (中学校)10/22 (水) 城南中学校 土門 正佳 先生

題材名 「大切に使われたものを心を込めてあらわそう」

身近な自分のものを介して、自分を主題にした題材であった。モダンテクニックなどの技法的なことなど、完成までの緻密な指導計画がしっかりと練られていた。教師が教材研究する中で、子どもたちに必要だと思われるもの、教えておきたい技法などが掲示物や板書にあり、これまでの積み重ねが表れていた。

○全市一斉授業研究会 (小学校) 11/12 (水) 飯島南小学校 伊勢 さおり 先生

題材名「編んだり組んだりして (線を集めて)」

厚手の紙テープを主材料として、飾ることを楽しむ題材であった。前段階の造形遊び的な活動の経験を生かし、紙製のテープを主材料として作品製作に取り組んだ。手を働かせながらつくる楽しさを、子どもたちは十分に味わっていた。

○水曜研修会 2/4 (水) ジョイナス 中研修室

「全国大会に向けての授業づくりのあり方」について

「造形秋田市」の発行に伴い、全市一斉授業研についての報告をした後、4グループに分かれて「授業づくり」「題材」について協議を進めた。各グループから活発な話し合いがなされ、秋田市として目指したい授業のあり方や、研究の方針、大会運営に関しての課題も出された。



組織	会 長	田 村	稔 (岩城中学校)
	副 会 長	石 井	真理子 (象潟中学校)
		赤 川	祐 輝 (矢島中学校)
	事 務 局	木 内	衛 (本荘東中学校)
	研究部長	関 口	琢 也 (象潟小学校)
	会 計	須 田	秀 二 (由利中学校)

主な事業

平成25年度造形部総会	4 / 16	造形部研修会	12 / 12
本荘由利児童生徒美術展	12 / 2 ~ 5	その他 本荘由利小・中・高等学校の図画工 作・美術の研究授業への参加(各校研究授業等)	

研究会の記録

1. はじめに

各校の教科研究や地区の研究会等で造形部員それぞれが研鑽を積み、指導法の研究や児童生徒の作品がどうあるべきかを考察すること、また、教科別研究集会や研修・研究部会・児童生徒美術展・県児童生徒美術展平面作品審査への参加など、様々な形で積極的に研修に参加することを、当会の具体的な目標とした。

特に、児童生徒美術展は各校の造形活動の取り組みを紹介し合う機会であり、より幅の広い意味での情報交換の場となっている。また、奨励作品の審査・選出を通して作品の見方や造形活動の在り方について協議する活動の意義は大きい。

2. 各事業の成果

(1) 本荘由利児童生徒美術展 (12月2日～5日)

由利本荘市文化交流館「カダーレ」で開催した。テーマである「描くこと・つくることが大好き」を反映した個性豊かな作品が多く見られた。昨年同様、立体作品の充実には目を見張るものがあった。

出品作品の中から造形部がめざす作品を「奨励賞」として選出した。各小中学校の教職員及び、造形部員の熱心な取り組みと各校の協力で、運営面・作品の内容共により充実した展覧会となった。

カダーレを会場として実施するのは3回目ということと、新聞やテレビ報道の効果もあり、児童生徒や保護者、地域の方々にも周知されてきた。また、設営・運営・撤収においても昨年度の反省を踏まえ、無事に終えることができた。会場近辺の方々も多数訪れていただき、来場数も増えてきたように感じる。

来年度は開催期間や広報活動、展示会場での職員の常駐などを確実なものとして、さらに地域の方々に親しんでいただく美術展としていきたい。

(2) 造形部研修会(12月12日)

由利本荘市市民交流学習センター多目的ホールを会場に、県児童生徒美術展に出品する本荘由利の作品を選出する公開審査会として行った。本年度から立体作品の審査も行うこととなったが、各校の協力によりスムーズに審査を進めることができた。

課題としては、立体作品の会場までの搬出入の仕方を周知徹底することが挙げられる。特に遠方のかほ市からの搬出入に関しては、事前に詳細を伝達しておくようにしていきたい。

造形部員にとっては、児童・生徒の作品の傾向・良さ・課題について話し合う有意義な研修の場となり、今後の授業に役立つ多くの情報を得ることができたはずである。

(3) 本荘由利小・中・高等学校の図工・美術の研究授業への参加

より本荘由利の小・中学校における年間の図工・美術の研究授業(要請訪問・教科等指定訪問)の一覧表が造形部員に配布され、一覧表を見て造形部員が希望する授業を参観するようにしている。高等学校会場の参加機会も含め、分科会にも積極的に参加するように勧めている。

組織 会長 高橋 克明 (仙北中学校)
 副会長 小林 高太郎 (桧木内小学校)
 監事 門脇 伸子 (生保内中学校)
 事務局 渡邊 真理子 (大曲中学校)
 田中 武晴 (太田中学校)
 田中 真二郎 (西仙北中学校)

奥 秀輝 (中川小学校)
 藤田 美保子 (大曲中学校)
 渡部 直子 (中仙中学校)
 高橋 涼 (大曲南中学校)

主な事業

○夏季研修会

「作品鑑賞と指導について情報交換」

期日：8月4日(月)会場

：仙北ふれあい文化センター

内容：授業作品を持ち寄り、指導方法や題材へのアプローチについて協議



○平成26年度

大曲仙北造形教育研究会仙北大会

期日：10月28日(火)

会場：仙北市立中川小学校・仙北市立角館中学校・平福記念美術館

・研究授業①(小2)
 「切ってひねってつなげて大へんしん」
 (造形遊び)

授業者：進藤 美喜子 (中川小)

・研究授業②(中2)
 「角館を織る」(表現)

授業者：長澤 真由美 (角館中学校)

今年度の研究大会では、小学校・中学校の公開授業、美術館での研修と内容の濃い研修となった。小学校2年生は、豊富な材料から、自ら表したいものを次第に見付けていく過程がよく分かる授業であった。中学校では、自分たちのふるさつを見つめ直し、自分なりのフィル

ターを通して見た角館を描く授業であった。生徒一人一人の感性が豊かに表現している様子がかがえた。

両授業とも、子ども一人一人の思いや考え、感じ方を大切にしていることが伝わり今後の授業改善につながるものとなった。また、美術館での研修では、「江戸に花開いた秋田の文化」と題して、小田野直武の画業や秋田蘭画の変遷等に焦点を当てた展覧会を鑑賞した。



○第45回大曲仙北児童生徒美術展

期日：11月22日(土)～24日(月)

会場：大仙市大曲交流センター講堂



研究会の記録

子どもの思いを教師がしっかりと感じ、それを大切に伸ばしていくことの大切さを改めて感じた公開授業であった。小学校では、低学年ということもあり、教師の教材研究の効果が随所に光っていた。牛乳パックを切る作業が2コマ続くことを想定し、はさみの持ち手にスポンジを巻く工夫を施していた。このことにより子どもたちは思う存分、切る感覚を楽しみ自分の感性を高めることができたのではないだろうか。また、中学校の授業では、題材を通して身に付けさせたい資質や能力の先にある大切なコトをしっかりと子どもたちに感じさせていたことが印象に残っている。美術と生きることをつなげ、ふるさつを描くことを通して感じるふるさつへの愛着。各学年、発達段階に応じて描く場所を設定し、3年間を通してふるさつのよさを再確認できる構造を年間指導計画上に配置していることは非常に参考になった。子どもと地域の実態を的確に捉え、授業を創造していくことの大切を認識した。

今年度新たな試みとして、小中学校へ図工美術に関するアンケートを行った。その結果は非常に多くの先生方が指導等で困っているという実態が分かった。次年度はその不安を少しでも解消できるような技法や用具の使い方のワークショップを開催する予定である。造形教育が育む資質や能力を明確にし、思い豊かで楽しくてたまらない授業を目指していきたい。

組織 会長 黒澤正尚 校長 (浅舞小学校)
副会長 佐藤稔 教諭 (横手南中学校) 嶋田良子 教諭 (醍醐小学校)
研究部長 美濃俊幸 教諭 (十文字中学校)
事務局 高橋輝樹 教諭 (横手北中学校)

主な事業

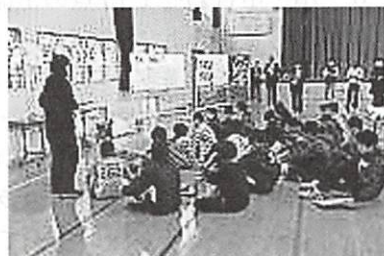
- ・ つくってあそぼう・浅舞公民館 (9月27日)
- ・ A列研究会・金沢小学校 (10月22日)
- ・ 第40回横手市児童生徒美術展・《横手駅前交流センター》Y²ぷらざ1F (12月2日)
- ・ 第55回秋田県児童生徒美術展・横手地区審査会 (12月5日)

研究会等の記録

・ 「つくってあそぼう」は横手市教育委員会、横手市子ども会育成連合会が主催の活動で、横手市造形教育研究会も『図工あそび』ブースを提供しました。内容は、紙粘土でマグネット作りや、プラ版シートを使ってキーホルダー作り、紙を切り抜いてつくるお面の各コーナーで子供達と造形を楽しみました。親子で工夫して楽しみながらつくる姿が印象的でした。



・ A列研究会では金沢小学校教諭 武内美保子先生から小学校6年生の授業「墨でリズムを表そう」を提示していただきました。小中合同の研究会のため、協議では題材について、子供達の取り組みについて、小中の連携について、児童生徒がつくる作品の傾向についてなど、様々な話し合いがすすめられました。授業を行うに当たり、8月に題材検討会を行いました。



・ 第40回横手市児童生徒美術展は12月2日(火)～5日(金)の4日間、横手駅前にあるY²ぷらざで実施されました。小中学校29校の力作が約650点が会場を盛り上げました。他校との情報交換や、題材研究の場としても、有意義な空間となりました。会場をY²ぷらざとしてから3年目になり



ますが、横手駅前ということもあり、多くの方々に作品を見ていただきました。

また、今年度は平日開催のため、作品を見学する時間が少ないという声もありましたが、展示された作品は、例年通りの力作ぞろいでした。最終日には、立体の審査も再スタートをして、より充実した審査会になりました。

組織 会長 芦原 清 巳 (三関小学校)
 副会長 佐藤 義 昭 (三梨小学校)
 事務局 三浦 秀 巳 (駒形小学校)
 会計 鈴木 陽 (稲庭小学校)

加藤 久 夫 (湯沢南中学校)
 長 雄 義 明 (羽後中学校)

主な事業

・第1回役員会：今年度の事業、並びに研修の内容について 4/14

・郡市教育研究会総会：研究テーマ、活動計画役員の決定 4/16

・第2回役員会：秋田県児童生徒美術展地方展について 9/19

・県美術展審査、地方展開催、撤去 11/20~11/25

・会誌「このゆびとまれVol.14」
 2月上旬製本・発送

・第3回役員会：事業反省、平成26年度の事業内容について 2月中旬

研究会の記録

◎秋田県児童生徒美術展湯沢雄勝地方展より

総出品数393点（小学校268点・中学校125点）のうち、120点を本郡市の優良作品として県に推薦した。今年度から立体作品が出品可能となり、小・中合わせて17点の出品があった。平面・立体の出品数および優良数は右の通り。

	平 面		立 体	
	小学校	中学校	小学校	中学校
出品数	264	112	4	13
優良数	80	32	2	6
合 計	112		8	

今年度の審査講評から特記事項を抜粋する。

(低学年) のびのびと大胆な構図で描き、豊かな色彩の作品が多い。楽しい体験がもとになっていて、描き込みも多く、思いが伝わってくる。

(中学年) 独創的な形、カラフルな色合いで、感性を生かして思い切って描いている。自分のテーマを存分に表している。

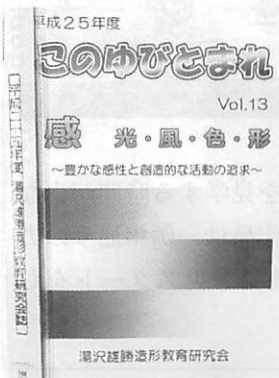
(高学年) じっくり見る力や自分でつくり上げる力が育っているのが感じられた。

(中学校) デッサン力の向上がみられ、時間をかけモチーフを細密に描き込んでいる作品が多かった。



〈画像は審査の様子〉

◎会誌作成



今年度で14巻となる。授業実践を中心に、造形に関する思いなどを自由に表現している。

モノクロからカラーへ、冊子からファイル形式へ。巻末にはその年に提示された授業・研究協議の様子や研修内容など、内容も年々充実してきた。

個々の研修をさらに深め、湯沢雄勝の造形を充実させていきたい。



研究の記録

平成26年度 第40回秋田県造形教育研究大会北ブロック(鹿角)大会

生きる輝き つくりだす喜び

～ 内面から湧き上がる造形活動を求めて ～

主催 秋田県造形教育研究会, 秋田県教育研究会造形部会, 鹿角造形教育研究会

平成26年10月2日(木)、県北鹿角市を会場に、第40回秋田県造形教育研究大会が開催されました。会員数が少なく、準備や当日の運営等滞りなく進められるか不安ではありましたが、大館北秋田造形教育研究会の皆様から応援をいただき、無事終えることができました。また、国民文化祭の直前の開催で、参加者数の心配もありましたが、全県各地より70名の方々が集まり、少人数ながらも熱心な話し合いが展開され、有意義な研究会となりました。

講演では、元駐日英国大使館大使公邸総料理長：畠山武光氏をお招きし、スイーツの世界での造形活動について、講演いただきました。相手のことを考えて、もてなしの心で、スイーツをデザインすることのすばらしさを感じ取ることができました。公開授業や研究協議の様子を簡単に紹介したいと思います。

◆ 日程

	8	9	10	11	12	13	14	15
花輪小	受付 8:30 } 9:00	公開授業 9:00 } 9:45	休憩・移動 } 10:30 鹿角市交流センターへ	開会行事 10:30 } 11:20	講演 11:20 } 12:20	昼食・休憩 12:20 } 13:20	研究協議 13:20 } 15:20	閉会行事 15:25 } 15:40
花輪一中	8:30 } 9:00	9:00 } 9:50		鹿角市交流センター(市役所となり)				

◆ 公開授業 小学校会場(鹿角市立花輪小学校)、中学校会場(鹿角市立花輪第一中学校)

	公開授業(題材名)	授業者	指導助言者
① 下学団	小学校 1年: 造形遊び コロコロ ベッタン	鹿角市立花輪小学校 高橋 麻衣子	能代市立二ツ井小学校 校長 佐々木 彰子
② 上学団	小学校 6年: 鑑賞 わたしの大好きなまち かづの	鹿角市立花輪小学校 成田 吉美	秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 鈴木 正樹
① 表現	中学校 2年: 表現 植物で染めよう～鹿角の伝統を生かして～	鹿角市立花輪第一中学校 関 清志	大仙市立仙北中学校 校長 高橋 克明
② 鑑賞	中学校 3年: 鑑賞 先人の絵に学ぶ	鹿角市立十和田中学校 佐藤 好一	北秋田市立合川中学校 教頭 嘉藤 貴子

◆ 研究協議会場(鹿角市交流センター)

	部会テーマ	実践発表 1	実践発表 2	司会者
A 下学団	見つけよう つたえよう	鹿角市立末広小学校 細田 昌浩 (2年: 造形遊び)	大館市立上川沿小学校 畠山 直子 (3年: 鑑賞)	鹿角市立平元小学校 奈良 紀子
B 上学団	思いをつくる 思いを伝える	大館市立城南小学校 米澤 貴子 (6年: 表現)	北秋田市立鷹巣小学校 木村 明美 (6年: 鑑賞)	大館市立城西小学校 田村 知子
C 中学校	人やものとの 出会いを通して	北秋田市立森吉中学校 佐藤 裕理子 (2年: 表現)	大館市立田代中学校 成田 麻衣 (3年: 鑑賞)	北秋田市立鷹巣南中学校 山崎 真紀子

大会主題

生きる輝き、つくりだす喜び ～ 内面から湧きあがる造形活動を求めて ～

1 大会主題について

老若男女、年齢を問わず、誰しも心を揺り動かされるような体験をすれば、その時の思いや感動を記憶にとどめようとし、また、そのような体験を再び味わいたいと思うことだろう。

記録として残そうとする造形表現を試みることもあれば、その思いや感動を他の人とも共有したいというケースもある。

ここ秋田県北は、世界遺産である白神山地が連なり、東北の中でも手つかずの大自然が身近に感じられる地域である。米代川の水運が北前船の上方文化を伝え、佐竹・津軽・南部といった藩境の文化を多彩に育み醸成させてきた。自然の恵みを生活文化に生かす伝統が、現在でも連綿と受け継がれている。各地域のお祭りを見るとその地域の人々の絆の強さを感じる。児童生徒は、そのようなたくさんの地域の人々に見守られ支えられながら育っている。情報化社会と言われて久しいが、バーチャルな情報や人との関わりだけではなく、実体験としての関わりをたくさんもつことのできる県北の児童生徒は、実に恵まれていると感じる。

図画工作・美術を担当する教師として、私たちは、児童生徒のたくさんの経験を表現として紡ぎ出したいと思う。人やもの・経験・体験といった出会いを見逃さず、時にはコーディネートすることを大切にしたい。彼らの思いや願いを発信する機会を果敢に創造することが重要と考える。

2 目指す子どもの姿

人・もの・ことと関わるなかで自分を見つめ、つくる喜びや感じ取る楽しさを味わい、ものの見方や感じ方を深めながら、造形活動に取り組む子ども

3 研究の仮説

感動を呼ぶ関わりをつくり出せば、よりよい造形活動を求めようとする意欲が高まり、子どもに豊かな情操を養うことができるのではないかと。

表現せずにはいられない心を突き動かす思いは、表現したいという動機となる。五感を伴った新たな感覚との遭遇は、児童生徒にとってワクワクする体験に相違ない。児童生徒が感じ取ったり願ったりしたことをタイムリーに表現する機会は、一つの出会いでもある。

表現と鑑賞は、車の両輪でもあり、蓄積されていく原体験も感じ取る目が育っていなければ、印象的な体験として認識されず、よりよい造形活動に発展させることは難しい。つまり、表現以前に美しさや造形的なおも必要となる。幼少期に様々な感動場面で他者から共感的に「きれい」「美しい」「おもしろい」「楽しい」「びっくり」などなど、語りかけられて育つことが、極めて重要である。素晴らしい造形要素について、他者が、どのような反応を示したかを幼児は判断し、自己の感情を識別できるように育つ。一度獲得した価値観は、他者に頼らず、自分で活用できるようになる。関心が高まると自ら探し求めるようになる。鑑賞に際して「なぜ、そう思ったのか。」「どこに何を感じたのか。」といった問いかけは、主体的に「見る」ことや「考える」

ことを促し、「気付き」の共有は、ものの見方や感じ方の深まりへとつながっていく。

4 研究の重点

(1) 身体感覚を揺り動かすような題材や授業展開の工夫

幼児期の造形活動の初期段階は、身体の各機能を確認していく過程ととらえることができる。全ての感覚を導入し、道具や材料（おもちゃや日用品）に接して、新たな形が作り出された時、行為の過程を含めて、自分に何ができるのかを発見する。外界に働きかけた行為が、環境を変化させることは、人が文化的に生きる存在になり得る端緒でもある。目的をもたない行為の中から偶発的に自己の能力に目覚めていく体験は、新鮮で喜びに満ちている。

新たな表現を生み出すことは、多様性の拡張であり、環境変化に適応しようとする欲求を充足させる。児童生徒にとって、未経験の主題・材料に出会うこと自体が、新たな表現を獲得する発端となる。本大会に向けて、題材や材料、人やものと出会う場をどのように設定するか、あるいは、どのように出会わせるかを重視してきた。また、児童生徒の価値観を大切にし、表現や鑑賞の活動の中で試行錯誤する場面では、自己選択・自己決定の場の効果的な設定について工夫してきた。

(2) 学習過程におけるよさや価値を感じ取れるような温かな評価

美術文化の背景となるものは、その文化が生み出した作品のみならず児童生徒が暮らす生活・自然環境をも包含する。グローバル化される社会のなかで、より多くの価値観を受容し、共生していく心情を育むことが、心の教育の面からも価値あることと考える。また、生き方に深く関わる「よさや価値」の感受については、自己決定する場を重視し、集団として一つの答えを見いだすのではなく、それぞれのよさや感じ方に目を向けたい。そして、児童生徒のよい点や可能性、成長についても継続的に把握し、一人一人の思いに寄りそう評価を目指したい。児童生徒同士や教師との対話を重視し、見取りや賞賛を大切にすることは、個々のよさを認め合える集団づくりにもつながる。また、互いによさや価値を認め合える場をいかに日常化するかについても欠くことのできない重点である。

【A：小学校下学団部会】

第1学年：A表現（1）造形遊び
分科会テーマ
「見つけよう つたえよう」

1 授業者の言葉（花輪小：高橋麻衣子先生）

(1) 授業設定にあたって

- ・ 題材名は「コロコロペッタン」という、写したりローラーなどで模様遊びをしたりする造形遊びである。子どもたちは、図工の時間がとても好きだ。絵を描くのは苦手な子も多いのだが、今日のような造形遊びはとても好きで、他のクラスの様子や材料を持ってきた様子から、ずっとわくわく感をもって授業に臨んだ。
- ・ カップなどの身近な材料で色を写すことで、偶然生まれる模様作りを楽しんでほしいかった。写すことで生まれた模様を「つなげて」と「重ねて」というキーワードを出すことで、子どもたちの中にこうしてみようという思いを引き出したいと思い取り組んできた。
- ・ 1時間目は個人で四つ切りの画用紙を使って取り組んだので、本時は、子どもたちの中から出てきた「もっと大きい紙でやりたい」「色を増やしたい」などという声を拾いながら準備を進めてきた。私は子どもたちにダイナミックに体を使って表現してほしいと思う、今回のようにロール紙を準備したり体育館の広い場所を使ったりと場の設定を考えてきた。こういった場の設定のもとに、子どもたちがどうであったかご意見をいただければいいと思う。



(2) 活動している中で感じたこと

- ・ 今日の印象としては意外とこじんまりとやっているという印象があったが、ちょっと慣れてきたところで、普段思い切り表現する

ということのない子どもがローラーで走っているのを見た。

- ・ 子どもたちなりに表したいことに合わせて、自分のやりたいことをやっている姿が見られてよかったと思った。



- ・ もう一つは、終末の温かい評価がお互いに行えるように作品を見合う時間を設けてきた。ただ「ここがかわいいね」というのではなく、めあてにもなっている「つなげて」「重ねて」という所をお互いに見ることができればいいなと思って少し強調したのだが、大きい紙で個人個人の表現が混ざり合っていたので、なかなか見付けにくかったのかなあということもやってみて分かった。前時の方が、子どもたちが一つの紙の中での表現の仕方を見合うことができたので、自分の中で、もっと強調して目を向けさせていけばよかったかなと思っている。終末などの相互評価の仕方や作品の見合い方などもご意見いただければと思う。

2 研究協議（話題になったことを中心に）

(1) 材料や場の設定について

- ① ロール画用紙と模造紙のどちらを選択すればよかったか。
- ② スタンプの材料など、多種多様な材料をどのように集めたか。
- ③ ダイナミックな活動をねらいとした場の設定はどうであったか。使用場所。紙の大きさ等。

(2) 活動グループについて

- ① 子ども同士の関わりを考えた時、自由なグループでよかったか。
- ② 最初は、一人で活動していても、進めていくうちに自然に生まれるグループでもよいのではないか。
- ③ 自然にできたグループでも、お互いに認め合う言葉が自然に出てきていてよかった。

(3) 子どもへの関わり方や見取りについて

- ① 教師は子ども達に働きかけていたが、子どもは活動に夢中で返答をしなかった。子どもに反応を求めるのではなく、教師の働きかけが、耳に残っていることを期待して働きかけをすることも必要なのではないか。
- ② 子どもが自分の活動を客観的に見られるよう、映像を見せたことが効果的であった。



3 実践発表について

(1) 実践発表①「造形遊びの実践から」

◎「題材の出会い合わせ方の工夫」と「表現活動・言語活動の充実」の二つの重点についての発表があった。

Q：図工ノートの活用方法は？

A：A4版ノートを活用している。普通の授業と同じように、めあてやまとめを書く、やった後の感想を書く、作品の写真を貼り、それについての自分のコメントを書く、友達作品を見たときの感想を書く、ビニールとか発泡スチロールを触ったときのイメージやどうしたいかをメモする、気持ちを残しておくなどを書かせて使っている。

Q：材料バンクの種類、集め方、使い方は？

A：保護者にも収集を依頼しながら、少しずつ時間をかけて集めた。いつでも持ってくることができ、貯めておいて使いたい時に使うようにしている。各学年にも呼びかけている。

(2) 実践発表②「くるくる ぱたぱた スーイスイ」

◎ 前任校の図工部職員と共に2年間実践を重ね、昨年度、鑑賞を研究対象にして行った題材の紹介である。「場の設定の工夫」、「効果的な学び合いのための学習形態の工夫」、「思いや考えを引き出す工夫」の3点を基にした発表があった。

Q：アイディアスケッチを描かせる時に気を付

けていることは？

A：あれしない、これしないという禁止は言わないようにしてきた。物語が分かるようなことがメモされていたり、材料について何をしたいとかどんなふうになっているなどと書かれていたりすれば作りやすいと思うので、そのような指導をしてきた。

Q：小学校での鑑賞の在り方は？

A：低学年であっても、語彙を増やしたり、広い見方を養ったりする上で、鑑賞の時間を十分とりたい。

◇ 言語活動との関連について、今の課題は、図工・美術での言語活動の充実と確かな学力で、付けたい学力は何かを整理しなければならない。理科は理科なりの、算数には算数なりの教科特有の言葉（用語）があり、それをおさえなければ次の段階に行けない。図工も同じで使うべき用語がある。今日の1年生や6年生の鑑賞でも、使ってほしい用語の提示があった。どの子どもその用語を使って自分の思いを説明できる、そしてどの子ども共有できる授業のシステムが必要だと思った。

4 指導助言（二ツ井小：佐々木彰子校長先生）

(1) 夢中で表現に浸る子どもの姿

・これが絶対条件である。そのための豊富な材料の準備や教師の働きかけがよかった。とてもダイナミックな活動であった。子ども達の感動の声もあった。

(2) 育ちゆく鑑賞の目

・1年生に鑑賞1時間はないが、あの1時間の授業の中に鑑賞の場面があった。付箋を貼ることは、自分で選ぶという主体的な学びであり、その喜びがあった。

(3) 学びの足跡

・子どもが学びの足跡を実感できる学習過程があった。子どもをステージに上げたことで、子どもは作る自分から見る自分に切り変わり、自分の学びを振り返ることができた。

・電子黒板を使いながら、動画や写真を提示したこともよかった。

・子どもに何がお気に入りか発問して、「青である」「重なりができています」と言った時、教師から「色？形？」ともう一つの問いかけがほしかった。

(4) 実践発表①について

・題材との出会い合わせ方が豊富である。材料バンクの取組もよい。

・デジカメによる記録についてはよい手法である。小規模校ほど使っていくべきである。

- ・ 図工ノートの取組もよい。図工ノートに写した記録の写真を貼って、そこから吹き出しに言葉を書かせて、イメージを広げるようにするとよい。表現することの楽しさを広げていただきたい。

(5) 実践発表②について

- ・ 他者との意識が芽生えつつある3年生の段階で、アイディアスケッチ・イメージマップを取り入れたことがよかった。
- ・ さらにポートフォリオも機能的でよい。後々大事になっていく。これが高学年になって、アイディアスケッチの参考になっていく。学習シートはいつも同じではなく、修正を加えて行くことが大事である。
- ・ 創造力は、本物と出会って、見る、知る、読み取る、感じることで発揮される。見るだけでなく、美しい物を発見する目、感じる目を養ってほしい。普段何気なく見ている周りのものの価値に気付く子どもを育てることが、情操を育てることにつながる。
- ・ 「真善美」という言葉があるように、何が美しいかの規準をもっていなければ、善も真も見えてこない。
- ・ 今日は地域の方の多くの協力があつた。人とのつながりを生かしたことが大きかった。

【B：小学校上学団部会】

第6学年：B鑑賞

分科会テーマ

「思いをつくる思いを伝える」

1 授業者の言葉（花輪小：成田吉美先生）

- ・ 花輪ばやしを題材にしてどうやってもっていくか悩んだ。組み立て屋台の鬼瓦を4枚借りることができたことで、授業構想ができてきた。
- ・ 子どもたちは、鑑賞だけの題材は今回が初めてである。



- ・ 主題に関わって、まず出会わせ方で実際の屋台は自分の目線より上で近くでは見ることができない。間近でじっくり見せたかった。白布をかけることで、興味・関心を引き、授業に対して初めての期待感をもたせた。

- ・ 38人で、どういう認め合う場（人数、時間、グループ）がよいか考え、タブレットを使つての設定にした。最近ではテレビを使つてみんなで認め合う場を設定する授業がある。
- ・ どんな様子という取り上げ方がよかったのか。彫刻だったので、彫り方までほりさげた方がよかったのか。
- ・ 地域素材を取り上げた授業を次の活動につなげていきたい。

2 研究協議（話題になったことを中心に）

(1) PCの活用について

- ① タブレットの活用が効果的であった。
- ② 写真で終わったのが残念だった。実物があるのに、実物に触れることができなかった。立体、レリーフの陰陽に気付くことができた。手袋をはめて触らせてもよかった。



(2) 地域素材について

- ① 地域素材は、社会基礎力を育てるともよい題材である。子どもたちは花輪ばやしについてどの程度の関わりをもっているか。
- ② 花輪ばやしと関わりが少ない子どもも、積極的に関わるような手立てはどうあればよいか。
- ③ 総合的な学習の時間などに関連させて、総合的に追究できればよいのではないか。

(3) 立体鑑賞について

- ① 本物のよさを生かしたい。
- ② 子どもたちから出てこない見方については、教師が紹介し、気付かせてあげることも大事だと思う。

3 実践発表について

(1) 実践発表①「墨でアート」表現

◎「導入の工夫」「自分のイメージをもたせ、広げるための支援」「感じ取らせ、考えさせ、味わわせるための言語活動の充実」「過程を大切にしたい評価」等の観点からの発表があった。

Q：具象と想像が混在しているが、どういう構想でやったのか。

A：意図は、形や色を表してほしいということ。具体・抽象どちらでもよいが、具体の方が分かりやすい。教科書は各社のものを見比べて選んだ。

Q：鑑賞の回数は？。その際に使うカードへの書かせ方は？

A：作品を描くたびに書いている。目的意識をもたせるために視点を与えている。「こんなのがA評価である」と明確に提示する。カードの大きさはB4。

Q：思いを広げるための声かけや指示の工夫をどのようにするか。

A：全ての授業で問いかけを大切にしている。疑問→なぜ→次につながる→学び合いという流れができ、反応を大切にしたい授業をするようにしている。

(2) 実践発表②「自分の思いを伝えよう」鑑賞

◎6年生の図工で取り組んできた題材の中から、「風神雷神図屏風を鑑賞しよう」「小さな美術館」「私のお気に入りの場所」の三つの中で、特に鑑賞に関する内容についての発表があった。

Q：鑑賞のさせ方は？

A：いつもは作品名と名札だけで、カードについて書かなくても感想を伝え合う。「今日は思いも」と言って書かせる。思いを大切にすることが大事だと思う。

Q：付箋にはどのようなことを書くのか。

A：3枚には好きなものを、1枚には気になったものを書かせる。

4 指導助言（北教育事務所：鈴木正樹指導主事）

(1) 素材とその出会わせ方

・本物と出会う場の設定が素晴らしかった。白布で覆ったことで期待感をもたせるなど、出会い方も工夫されていた。知っているものだが、造形的な要素に着目したことで、気付いたり考えたりする喜びに満ちた時間になった。

・地域の人々が受け継いできた美意識や創造的な精神などを感じることができる題材で

あった。次回、屋台を見ることで、美術文化への理解を一層深めることができるだろう。

(2) タブレットの活用について

・タブレットを使うことで、その子が、どの部分に注目したか他の子に伝えやすかったし、話合いにも広がりが出ていた。

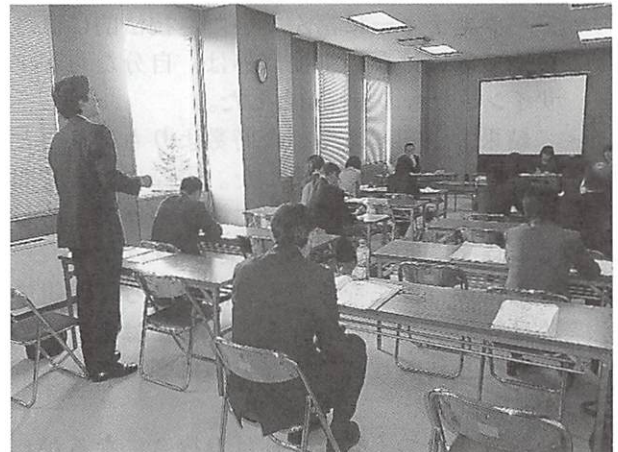
・ICT機器活用の一つの提案として参考になる取組であった。ただし、立体を鑑賞の授業で取り上げることの難しさを考えると、本物がそこにあるのだから、タブレットを活用しつつ、もっと実物を生かしたかった。

(3) 評価について

・題材を通して身に付けさせたい資質や能力を明確にすることが大切である。子どもがその力を発揮している場面を教師が適切に見取り、認めることが必要。成田先生はグループの話合い場面で、子どもたちの造形的な特徴への気づきを認める声かけをして、自己肯定感を高めるような評価をされていた。

・教師の適切な支援で、「こんなことに気付くことができた」「作ることができた」という喜びと学びの実感をもつことができる。

・鑑賞文を長く書けば「十分満足」ではない。文章の中に、鑑賞活動を通じた得た、造形要素に関する気づきがあることが大切である。



(4) 実践発表について

・木村先生は、子どもたちの実態からスタートしている。表現することに対する苦手意識をなんとかしたいという思いから出発して、鑑賞活動を通して、多様な価値に触れさせ、表現する力につなげている。

・「小さな美術館」という実践は、作品が美術館に展示されているような雰囲気まで考えている。本物と出会うことが理想であるが、なかなかできるものではない。そこで作品を大きく拡大し、展示方法を工夫することで「作品との出会い」を大切にしている。

- ・ 米澤先生は、多様な試しの場を用意し、試行錯誤する時間を保証している。子どもの自己決定を大切にしてい取り組まれていた。
- ・ 映像を用いて雪舟と出合わせることで、短時間で水墨画の世界に対する共通の認識が出来た。ベースがあるから制作活動が充実するし、最後の鑑賞カードの言葉にもつながった。
- ・ 制作途中や最後の鑑賞会では、先生が率先して豊かに反応している。先生がよき鑑賞者のモデルとなることで、子どもの鏡となるような温かい支援の姿であった。

【C：中学校部会】

①第2学年：A表現

②第3学年：B鑑賞

分科会テーマ

人やものとの出会いを通して

1 授業者①の言葉（花輪第一中：関清志先生：表現）

- ・ 指導案には全体で5時間の設定をした。絞りの模様を糸で縫い、ワンポイントの簡単な模様とする予定だった。実際に作業をやらせてみたところ、自分用、プレゼント用、どんな思いを込めるのか、など、デザインが複雑でバラエティーに富んでいた。技法的に直さなくてはいけない生徒以外は、自分たちがデザインしたものを採用とした。
- ・ 結果、当初考えていた時数よりも縫うことに時間がかかってしまった。実際には3時間目に縫う作業、4時間目に絞りの作業、そして本時5時間目の染めの作業となった。
- ・ 茜染めは揉まなくても染料が入る。紫紺染めは染めに3時間かかる。50分では紫紺染めは無理と判断し、急遽茜染めに変えて指導案を書き直した。
- ・ 絞りをきつくした生徒は白抜きになるが、絞りが緩い生徒は白抜きにならず、染液が入ってしまった。ゆるめに絞った生徒は、「白抜きのところは、もっと絞りをきつくしておけばよかった。」という振り返りがあった。

2 研究協議：授業①について

(1) 染めの濃さについて

Q：自分の好みによって、濃さを調整することはできないか。

A：時間の関係で、好みの濃さにすることができなかった。本業は何度も重ね染めをする。

Q：模様のデザインについて、どのように指導したのか。

A：伝統的な和の文様のところで、ミニ鑑賞を行った。自分の作る模様にどんな願いを込めるかということを考えさせた。

Q：「見通しをもって」ということから、途中で出して染まり具合を見たりできるのか。

A：テストピースによって、イメージをもたせることができたのではないかなと思う。



(2) ゲストティーチャーについて

Q：事前の授業にゲストティーチャーが深く関わっていた。どの程度関わったのか。

A：今日で4回目の来校となる。2年生4クラス、計16回来ていただいた。毎回3～4名くらいに来ていただいた。

Q：ゲストティーチャーの方が郷土愛に満ちていた。ゲストティーチャーの方との呼吸が合っていた。今日の授業についてどのような打ち合わせをしたか。

A：毎回指導案上で打ち合わせをしていた。関さんは教職経験者のため、互いに意見を出し合って授業を作ることができた。

(3) 鑑賞について

Q：題材の導入、鑑賞の様子はどうだったか。

A：紫の紫紺染めは生産されてから、3～5年、タンスに入れて色の定着を待つ。普通の染料とは全く違う。1枚7～8万円する。何度も重ね染めしてできあがってくる。暗いところで見ると自然光で見るとの色の輝きが違う。本物を色の美しさを生徒に見せたいと思っていた。生徒は実際に見て、触ってみて感動していた。

3 授業者②の言葉（十和田中：佐藤好一先生：鑑賞）

- ・ 3年生の鑑賞。話合いが広がるように、身近な作家の方が親しみがわいてよいのではないかな、と思い、地元の日本画家にした。描き込みが多いため、色や形をもとに、根拠をもとに価値観を話し合う題材としてふさわしい

と思った。プリントに自分の考えをまとめ、グループで全体で交流させた。

・鑑賞の途中で作者と作品名に触れる場面があった。作者の人物像について想像させたり、衣装について考えさせたりしながら、地域の芸術文化について考えさせたい、文化を継承するという心情を育てたいと思った。

・私自身、鑑賞の授業をやってみると、道德のように生徒の考えをまとめていくのが難しいと感じる。十和田中の3年生3クラスとも、別々の視点で話が広がっていった。

4 研究協議：授業②について

Q：郷土の画家を扱うと「郷土への愛を描いた」にとどまり、絵のよさに触れられずに終わってしまう。どのような色や形に注目したか。

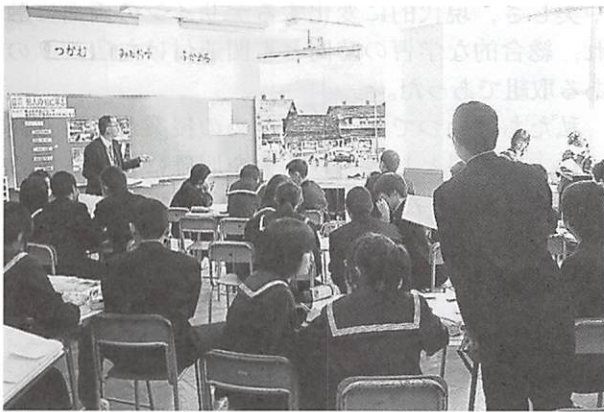
A：生徒が気付いたのは、全体的な色温度、夕方か朝か。全体的な雰囲気を感じた。個々には、魚の表現、馬のしっぽの様子など、個人様々だった。

Q：作品の実際の大きさはどのくらいか。

A：作品は、ふすま2枚分の実物大である。

Q：根拠をもった発言ができていたが、これまでどんな作品を鑑賞してきたのか。

A：ゲルニカを鑑賞した。



5 実践発表について

(1) 実践発表①「自分の手になじむ箸づくり」

◎ 家庭科で箸袋、美術で箸づくり、ということをして3年ほど行っている。この題材を通して箸について考えた。造形的におもしろい要素がある。ユニバーサルデザインでは、障害がある人でも使えるなど、社会で伝えたいことが多い。

対象が自分なのか、他者なのか、によって題材の組み立て方が変わってくる。小刀を使うので、用具の勉強にもなる。造形的に限界があるものの、発想力が鍛えられたのではない

かと思った。

Q：時間はどれくらいかけたか。

A：デザイン・導入に1時間、制作に3時間、鑑賞に1時間。失敗すると1からやり直し。

Q：鑑賞はどのような形式で行ったか。

A：家庭科で作った箸袋とセットで鑑賞した。

Q：食器用ニスでの仕上げとのことだが、他にどんな方法があるのか。

A：蜜蝋もある。太めに作って削りながら使うという方法もあるそうである。

Q：削った後に「塗り」で模様を描いたり螺鈿を使ったりできないものか。

A：模様は「彫り」だけである。

(2) 実践発表②「ふるさとの伝統工芸に学ぶ

～大館曲げわっぱ～」

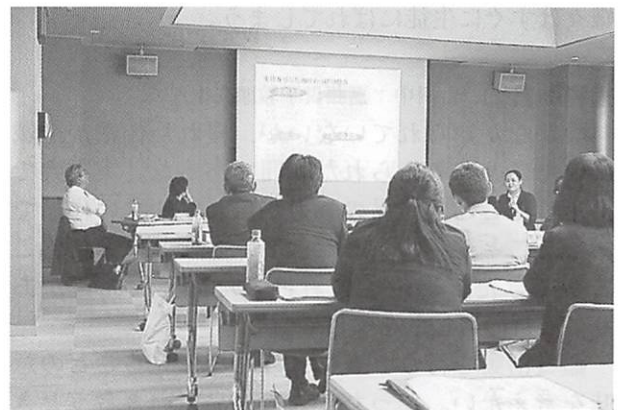
◎ きっかけは、生徒たちの「大館は何もない」という声であった。身近によいもの、魅力的なものがたくさんあるので、美術の授業を通して、大館の誇れるものを伝えていきたいと思った。大館のふるさとキャリア教育を盛り込みたい。

大館のもの、人、ことに直接触れ、ふるさとへの愛着心を育てたい。実感を伴う経験が不足しているので、ふるさと大館への愛着と誇りにつながるのではないかと考えている。

これまでの実践として、表現では「私のふるさと写真展」を、鑑賞では「曲げわっぱの鑑賞」を行ってきた。

Q：「曲げわっぱについて知る」の時に使うために準備した曲げわっぱ。高価なものをどのように準備したのか。

A：学校の先生方から弁当箱を借りたり、工房から安く購入したりして、数をそろえた。



6 指導助言① (仙北中：高橋克明校長先生)

今日の授業、実践発表ともに共通していることは、生徒達が体験・経験しているということである。子どもたちの感想で、「模様が出たところと出ないところがあった」というのも経験したから

分かったこと。子どもたちは満足いくことができた。地域性のあるよい実践だった。

協議の中で「工芸」は家庭？技術？という話があった。学習指導要領において、昭和22年は技術的な分野が非常に多い。図案、木工、金工、手芸、セメント工など、すべて美術の分野である。それが昭和26年には職業・家庭科に分化していった。33年には美術、図画工作科、技術・家庭科に変わった。「染色」は今の学習指導要領家庭科にはない。とすれば、伝統工芸的な分野は日本文化の理解という意味でも美術でやるしかない。

工芸分野では、一品制作として芸術的、創造的なものは美術。大量生産、工業生産、合理的なものは技術でやると考えれば分かりやすい。曲げわっぱの工房などで、失敗した端材などをたくさんもらってきて新たな作品にしたりなども考えられる。稲川中では川連漆器の塗師、沈金師とTTを組み、新たな漆器製品を作り、提案する授業などをやっていた。今までの伝統工芸に新たな提案をし、新デザインとなった。子どもたちがそれら地域の伝統工芸を経験する中で自分のキャリア発達ができる。グローバル教育の前に、自分の足下を固める経験が必要である。地域から日本に、そして世界に。

今日の染めの作業のように、熱い湯に手を入れて、熱いと言う経験も大事である。また、定着させるところでの冷水での冷たいという経験、こんなにも大変だ、こんな事も工夫していると言うことを知ることは、次のものづくりへの糧にもなるし、先人の苦勞を知ることにもなる。

私たち美術教師はものづくりを楽しまなければいけない。指導者が楽しいという姿を見せることで「美術って楽しい」と生徒に伝えてほしい。嫌々はずぐに生徒にばれてしまう。

指導助言② (合川中：嘉藤貴子教頭先生)

なかなか知られていないが、優れた作家が地域にいたことを教えられた時間であった。実物大で提示したこと、作品の魅力が伝わりやすい作品であったことから、子どもは多くのことに気付くことができた。形や色に着目した活発な発言があり、鑑賞の楽しさを感じていた。

鑑賞活動を行うときに、みんなで見ることを意味を考えたい。たった一人で作品に向き合うときと何が違うのか。グループで話し合うのは何のためか。全体で話し合うのは何のためか。

考えと考えがつながることで、作品の中に一人では気付かなかったことが見えてくる。一人一人の異なる発見を、先生がねらいをもってつなげていくことで、話合いを深め、作者の思いに近付け

たい。

「手すりが壊れている。なぜここを直さないのか。」という子どもがいた。この子どもは壊れたところは直さなければいけないと思う子どもなんだと分かる。なぜ、作者は壊れているここをあえて描いたのか。構図を切り取るときに、外すこともできたのに、ということを一人的子どもの発言から考えさせられる。

子どもの発言やワークシートから見取った気付きや思考を結び付け、形や色にどんなイメージを抱いたのか、表現の工夫はどこにあるのかを十分に思考させることが美術の力を付ける上で大切なことである。

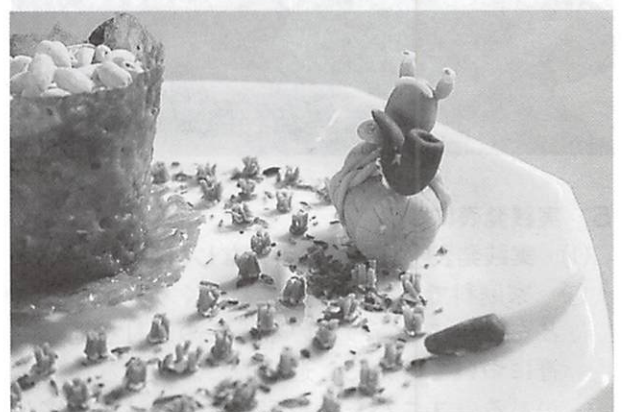
作品のデータ(題名や作者名)を与えることがよいのか悪いのかという話題については、それを与えることが、子どもの思考を活性化させるのか、停止させるのかという観点で考えたい。

<実践発表について>

どちらの実践も生活の中の美術の働きに着目している。美術と文化、ものづくりの喜びについて考えさせるものであり、五感を生かした鑑賞活動が行われている点がよかった。

実践発表①は、技術・家庭科と連携し、トータルデザインや新しいブランドの立ち上げという切り口から迫ることの可能性が見られるものであり、実践発表②は、伝統的な工芸品としてのよさや美しさ、現代的に変化するデザインの両面に触れ、総合的な学習の時間とも関連付けた広がりのある取組であった。

私たちはいつでも、何のための授業かという問いに、美術科として付ける力を明確に答えられる美術教師でありたい。



元駐日英国大使館大使公邸総料理長の畠山武光氏が

講演にあわせて作ってきていただいたスイーツ

第59回東北造形教育研究大会岩手大会

大会主題 「心をつなぎ、豊かな感性をひらく造形教育」

—かかわり合い つくりだす喜びを大切にしてい—

秋田市立御所野小学校 松田 由紀子

平成25年7月30日（水）31日（木）の二日間にわたり、「心をつなぎ、豊かな感性をひらく造形教育」をテーマに第59回東北造形教育研究大会岩手大会が開催された。初日は、文部科学省教科調査官岡田京子先生による記念講演、二日目は、学校法人ひまわり学園都南幼稚園、盛岡市立向中野小学校、盛岡市立厨川中学校の3つを会場に公開授業、実践発表が行われた。

岡田京子先生による講演「つくりだす喜びと造形教育」では、映像を交え生き生きとした子どもの活動の様子が紹介された。子どもの絵を見て何を表しているのか隣の参加者とコミュニケーションを図りながら鑑賞するなど、楽しく講演を拝聴することができた。鑑賞の評価では、子どもが書いた学習シートだけではなく、鑑賞している様子を観察し、それと照らし合わせながら見取っていく大切さを改めて感じた。

公開授業では、幼稚園部会「見て、触れて、感じて、表す表現活動」、小学校部会「みつめ、あらし、つながる、豊かな造形活動」、中学校部会「自分を大切に、豊かにつながり広がる造形活動」をそれぞれテーマにして公開授業が行われた。

3年生「はんでうつしてどんどん広がるものがたり」（絵画）の授業では、作品を置き構成を考えることのできる場、刷る場、版を修理する場などの活動場所が工夫されていた。また、活動場所を移動するときに、友達の活動や作品を自然に見ることができるよう場に設定されており、友達とのコミュニケーションを意図的に促す役割を果たしていた。活動前には、グループの中で「わたしは〇〇にしようと思っているので、□□に写します。」などの話形を活用して、困っていたり迷っていたりすることを友達に相談し、アドバイスをもらえるような交流タイムを設けていた。友達との交流は、その後の発想や構想の広がりにつながっていた。

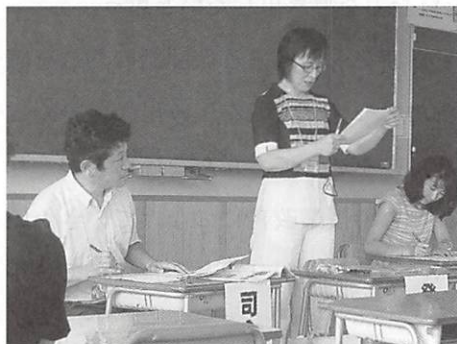


【グループで交流タイム】

実践発表では、秋田大学文化学部附属小学校の三浦典子先生より、鑑賞に関する実践が紹介された。子どもが主体的に絵を見る楽しさを味わい、また、友達との交流を通して、多様な見方や感じ方に気付いたり、新たな発見を共有したりできるように題材が設定されていた。その手立てとして、四つのキーワード「よく見て よく考えて よく話し よく聞いて」を提示する、絵との感動的な出会いを図る、自分なりの方法で鑑賞キャプションをつくる活動を設定することなどがあげられた。友達と交流しながら新たな見方や感じ方に気付くことができ、楽しく活動できる授業実践であると感じた。



【構図を考えて刷る位置を決める】



【鑑賞に関する実践発表】

岡田先生の講演の中にもあったが、「自分の表したことに共感してもらったり、認めてもらったりすることがつくる喜びになる。やってみたい（見通し）、やってよかった（振り返り）がつくる喜びにつながる。」ということが、提示授業や実践発表から感じることができた大会であった。

第59回東北造形教育研究大会岩手大会に参加して 「心をつなぎ、豊かな感性をひらく造形教育」 －かかわり合い つくりだす喜びを大切に－

大曲仙北造形教育研究会事務局 田 中 真二郎

平成26年7月30日（水）・31日（木）岩手県盛岡市で第59回東北造形教育研究大会が行われた。一日目は文部科学省教科調査官 岡田京子氏の講演が行われた。演題は「つくりだす喜びと造形教育」であった。はじめに、一枚の子どもの絵がスクリーンいっぱいに映し出され、何が描かれているのかを問われた。近くに座るもの同士、自由に考えを出し合いお互いの見方について交流し大いに盛り上がった。他の視点を得ることによって自分の視点が広がる感覚を実感した瞬間であった。こうした経験を子どもたちに積ませてあげたい。一枚の絵を鑑賞し、他と関わることを通して自分の価値を広げる。そんな鑑賞の授業を意図的に仕掛けていきたいものだと感じた講演であった。

二日目の公開授業では、盛岡市立厨川中学校を会場に鑑賞の授業を参観させていただいた。第2学年「仏像の魅力」という題材名で行われた授業は、グループでの鑑賞活動であった。地域にある仏像（等身大）や他の仏像写真を鑑賞し、仏像の意味や込められた思いなど言語活動を通して考え、ねらいにせまる方法で行われた。教師の教材研究はしっかりと行われていて、子どもの生活と仏像との接点をしっかりとつなぎ、興味をもたせるアプローチが素晴らしかった。（例えばAKB48と仏像の並びなどの共通点）

しかし、言語活動を通してねらいにせまる方法だが、注意しなければいけない点があることが協議会で浮き彫りになった。単に話し合いが盛り上がったからと言って、その活動がねらいに迫ったかどうかはまた違う話だということである。仏像の形の違いに関しては、色々で見付けやすくすぐに意見は出る。第2学年の発達段階を考えれば、この違いに関して深く聞き出さなくとも、ねらいに迫ることはできたのではないかなど、見方や感じ方を深める手立て、教師の発問に関して課題が挙げられた。活動が目的にならないように、言語活動はねらいを達成するためのツールであることを頭に入れ行いたいと改めて感じた。

鑑賞活動に関しては、多くの学校で意識的に時数を増やし行われるようになってきている。表現活動との相互の関連も指導要領で言われている。鑑賞活動には様々な方法や理論が存在し、全国各地で様々な研究が進められている現状である。しかし、授業の中心は子どもである。どんな資質や能力を身に付けさせたいかが明確にあり、その上でどんな作品を鑑賞させるかは、現場の教師に委ねられているのだ。単なる知識の詰め込みにならないように、子どもの実態、題材配列等を考慮して鑑賞で育む力を導き出したいと思う。

今回の東北大会では、表題にもあるようにかかわり合い、つくりだす喜びを大切にする教師側の熱意を感じた。これからの社会で生き抜くためには他との関わり合いを通じて新たなモノ・コトを生み出していくことが必要になってくるのではないだろうか。中学校の段階では、関わり合いを通して、新たな価値をつくりだすことが非常に重要になるだろう。この夏に得た新たな視点を基に、自分の授業改善につなげていきたいと思う。今一度、自分の年間指導計画を見直し、表現と鑑賞のバランス、そのつながりなどを整理して3年間を見通したものにする必要を感じた大会となった。

全国&関東甲信越静岡地区 造形教育研究 山梨大会
大会テーマ 造形100年教育
～わたしを俯瞰して見えるもの～

秋田市立泉小学校 黒 沢 淳

◎「甲斐善策」(改善策)

・山梨では今の授業をよりよくするための方策を、「甲斐善策(かいぜんさく)」と呼ぶ。そのキーワードが「俯瞰」と「共有」である。そして、造形教育を貫く資質や能力としての[共通事項]を根底に授業の改善を図ってきた。

◇「俯瞰」

・小学校から中学校までの9年間を大きな流れと捉えて、今すべきことを明らかにしていくことを山梨では重視してきた。造形教育の中では、図画工作と美術は一連のものとなっているが、実際は互いに実践していることを断片的にしか認識していないことが多い。そこで、小学校と中学校が幼保、高校、大学までも巻き込んで共同研究を盛んに行っている。

○図画工作から美術への9年間を通して見えるもの

小中9年間のまとめ	小学校	中学校
関心・意欲・態度	広く”楽しみ”,そして深く”こだわり”,それが豊かな生き方に・・・!	
発想や構想の能力	思いは豊かに膨らませ,やがて取捨選択し独創的に・・・!	
創造的な技能	思いのままの試行錯誤が,やがては私だけの表し方に・・・!	
鑑賞の能力	身近なものから異文化へと,広がる深まる私の世界・・・!	

◇「共有」

○「造形教育で付けたい4つの力」とそれらを育成する言葉

	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
低学年	たのしく やろう!	かんがえよう!	いろいろ やってみよう!	たのしく みよう!
中学年	進んでやって 楽しもう!	いろいろ 考えよう!	ためそう! 工夫しよう!	見つけよう!
高学年	思いをもって 楽しもう!	思いに合わせて 考えよう!	思いに合わせて 工夫しよう!	見つめよう!
中学校	私が決める 愛でる	練り上げる 思い付く	実現させる 工夫する	受け止める 心に刻む

・図画工作・美術で働かせる資質や能力を、子どもと教師が共有するための手立てとして、短い言葉で示す。

→ これらの言葉を数年間にわたり授業で用いてきたことで、子どもたちから「上手い」、「下手」という言葉が消えていった。

→ 子どもたちは、単に優れた技能よりも発想の豊かさや、工夫すること、作品のもつよさを見いだすことに目を向けることができるようになってきた。

大会では、「共有」と「俯瞰」に関して以上のような研究説明を受けてきた。

○授業の参観、協議会への参加を通して

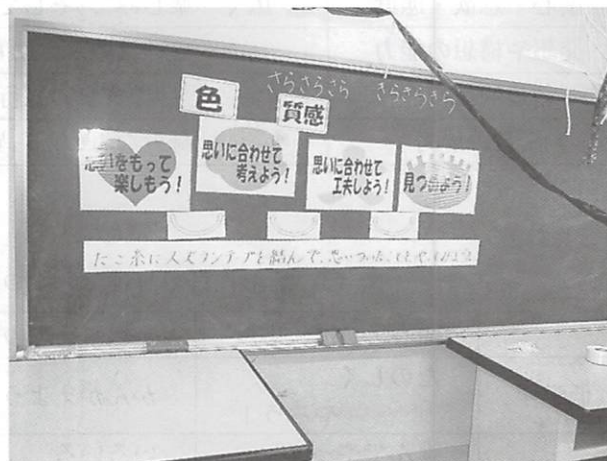
「造形遊びはどのような力を育むのか」ということを改めて考えさせられる内容であった。6年生の造形遊びでは、天井から吊された無数のたこ糸に、スズランテープを結びつけたり、たこ糸同士を結びつけたりするなどして、自由に楽しむものであった。

協議の中では、

- ・以前に似たような経験をしているので、子どもに驚きや、強い関心が感じられなかったように見えた。
- ・スズランテープのもつ要素、色（10色くらい準備していた）や質感が思ったように子どもに響いていなかったようだった。
- ・教室の外へ出て行くようなダイナミックな活動の広がりを期待していたが、割とこじんまりとした活動に落ち着いてしまっていた。

など、題材としての発想はよかったが、授業としてのアプローチに検討の余地があるという意見が多くあげられた。

造形遊びのもつ意味は、大変大きいのだが「自己評価がしやすい」反面「他者評価がしにくい」ということや、年間の授業時数が削減されたこと、作品製作の評価はしやすいが活動の評価はしづらいといったことから、小学校の6年間を通してさえも題材として取り上げられないことが多いといった声もあがっていた。やらなくても1年間が過ごせてしまうといった現実があるのである。活動（色と形で遊ぶ）を通して学ぶことは実に多く、作品製作をするにあたって、経験の差が出るのも造形遊びの経験値（質と量）がものをいう。ただやればよいのではない。いかに見通しをもち、小学校の現場で共通の認識をもって活動を保障していくかが大切なのである。協議の中では、課題が多いというような発言が多かったように思う。



○児童によるギャラリートーク

山梨県立美術館には「ミレー」の「種をまく人」を始めとする世界各国の著名な芸術家の作品が展示されている。今回は、小学校6年生がギャラリートークと題し、17点あまりの作品解説をしてくれた。自分なりの解釈と作品の解説を、訪れた参観者に何度もしてくれたのである。子どもたちは、季節ごとに入れ替えられる展示作品を、その都度鑑賞する機会に恵まれているようだ。自分たちの美術館が所有する作品に、誇りと愛着をもって「語る」ことができる子どもたち。私たちが目指したいのは、学校教育と美術館運営の連携によって、このような子どもたちをたくさん育てることではなかっただろうか。授業づくり以外にも、多くを学ぶことのできる研究会であった。

第55回 秋田県児童生徒美術展

期 間：平成27年1月8日(木)～11日(日)

会 場：アトリオン

4日間とも開館時間帯は、10：00～17：00

○主 催 秋田県教育研究会造形部会
秋田県造形教育研究会

○後 援 秋田県教育委員会 秋田市教育委員会
秋田魁新報社 NHK秋田放送局
A B S秋田放送 A K T秋田テレビ
A A B秋田朝日放送

第55回秋田県児童生徒美術展 郡市別入賞数一覧

	優 良	平面／立体	推 奨	話題作
幼 保	98	98／ 0	8	2
鹿 角	59	58／ 1	4	2
大 館 北 秋	155	154／ 1	10	4
能 代 山 本	104	100／ 4	9	2
男 鹿	43	41／ 2	4	2
南 秋	62	60／ 2	7	3
秋 田 市	283	248／ 35	16	11
本 荘 由 利	113	88／ 25	8	4
大 曲 仙 北	107	85／ 22	7	3
横 手	52	50／ 8	2	1
湯 沢 雄 勝	121	113／ 8	7	4
合 計	1,197	1,095／ 102	82	38

※ 優良数には推奨数、話題作数を含む。

入場者数 3,384人

話題作一覽

（魁掲載）作品 ～平面の部～

学年	題名	学校名	氏名	郡市
幼保	かばさん きれいにみがいてあげますよ	上宮第二幼稚園	橋本 紗々	横手
	マーチングがんばったよ	ひかり保育園	さが もえ	本荘由利
小1	大きなりゅうにのって 大ぼうけん	皆瀬小学校	さとう はると	湯沢雄勝
	かまきりさんはこわくないよ	二ッ井小学校	成田 譲紀	能代山本
	おれがキングだ	小友小学校	三保 慶悟	本荘由利
	いってみたいな くじらにのって	御所野小学校	相田 奏音	秋田市
小2	あばれるきょうりゅう	五城目小学校	畑沢 海斗	潟上南秋
	白くま水ぞくかんにようこそ	船川南小学校	藤原 暖菜	男鹿
	ノコギリクワガタとあそんだよ	東館小学校	畠山 龍之介	大館北秋
	カバさんの水遊び	四ツ小屋小学校	さとう ふうか	秋田市
小3	がらくたで作ったきょうりゅう	大豊小学校	高橋 真尋	潟上南秋
	音ぷといっしょに空の旅	石沢小学校	小松 璃虹	本荘由利
	ハープの家	四ツ小屋小学校	佐々木 季恋	秋田市
	町を守る消防車	下新城小学校	宇佐見 虎士	秋田市
小4	見上げてみれば	三梨小学校	佐藤 香織	湯沢雄勝
	あったらいいなこんな木	大館南小学校	虻川 詞保	大館北秋
	ウルトラミラクルでっかい花	秋大附属小学校	金 正士朗	秋田市
	宇宙にある火山口で小鳥の旅行がスタート	四ツ小屋小学校	竹嶋 慧	秋田市
小5	歴史を重ねた三浦館	下新城小学校	中泉 琉豊	秋田市
	ミステリーな夜の世界	大住小学校	佐藤 桃香	秋田市
	海のナンバー1！	象潟小学校	池田 悠莉	本荘由利
	進め！ミカンのぐにやぐにやめいろ	東成瀬小学校	鈴木 野乃子	湯沢雄勝
小6	ふしぎな世界	払戸小学校	目黒 操	男鹿
	みんなの気持ちがハーモニーを生む場所	平元小学校	木村 心祝	鹿角
	いつも乗っているバスから見える学校	鷹巣南小学校	布田 茉穂	大館北秋
	スノーカントリータウン	東大曲小学校	野中 嘉紀	大曲仙北
中1	トモダチ	桜中学校	竹内 小春	秋田市
	夕日に染まる生徒玄関	花輪第一中学校	川又 航大	鹿角
	学校から出た瞬間	常盤中学校	小林 京慎	能代山本
	払田の柵の神様たち「柚の神」～空間彫塑～	仙北中学校	本間 華音	大曲仙北
中2	横手からみえる鳥海山	横手北中学校	吉田 叶	横手
	幻想	羽後中学校	高山 紀久恵	湯沢雄勝
	海の時間	西目中学校	渡辺 沙弥	本荘由利
	駆けぬける男	桜中学校	吉田 晴稀	秋田市
中3	カオスのアート	将軍野中学校	田村 嶺弥	秋田市
	最後まで	第一中学校	高橋 杏佳	大館北秋
	帰り道	大潟中学校	村上 大悟	潟上南秋
	グラン・ギニョール	美郷中学校	長沢 光	大曲仙北

平面の部 / 話題になった作品

幼稚園・保育園



かばさん きれいにみがいてあげますよ
上宮第二幼稚園 橋本紗々



マーチングがんばったよ
ひかり保育園 さがもえ

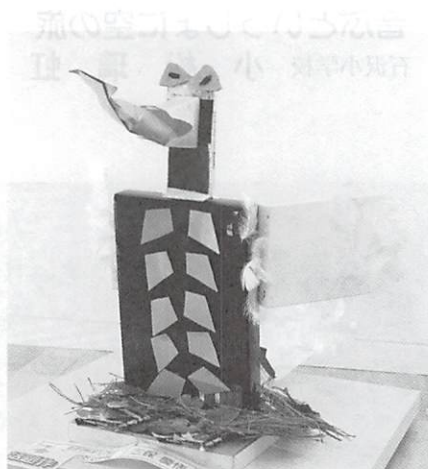
小学校作品



大きなりゅうにのって 大ぼうけん
皆瀬小学校 さとう はると



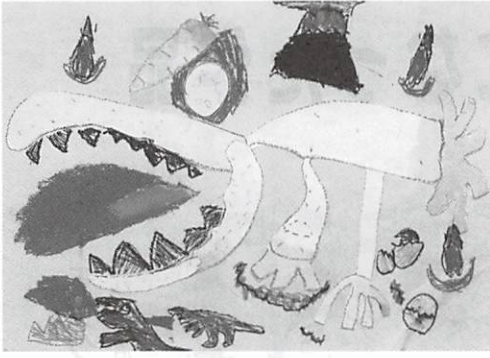
かまきりさんはこわくないよ
ニッ井小学校 成田 譲紀



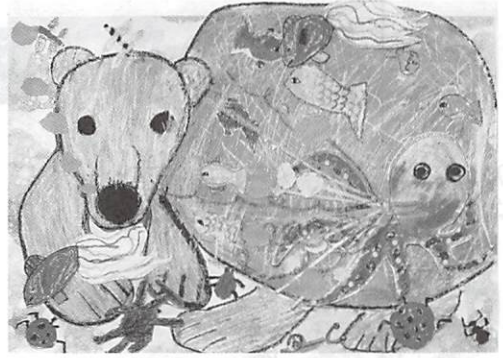
おれがキングだ
小友小学校 三保 慶悟



いってみたいな くじらにのって
御所野小学校 相田 奏音



あばれるきょうりゅう
五城目小学校 畑 沢 海 斗



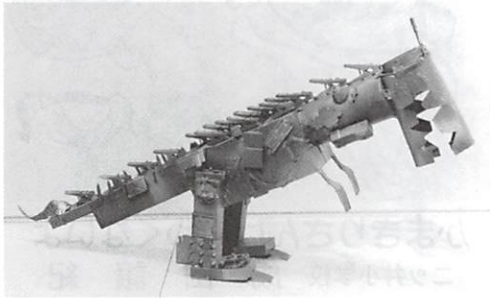
白くま水ぞくかんにようこそ
船川南小学校 藤 原 暖 菜



ノコギリクワガタとあそんだよ
東館小学校 畠 山 龍之介



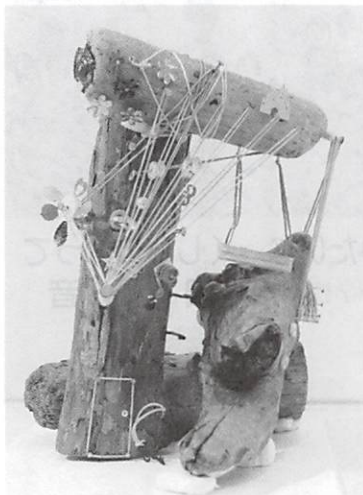
カバさんの水遊び
四ツ小屋小学校 さとう ふうか



がらくたで作ったきょうりゅう
大豊小学校 高 橋 真 尋



音ぷといっしょに空の旅
石沢小学校 小 松 璃 虹



ハーブの家
四ツ小屋小学校 佐々木 季 恋



町を守る消防車
下新城小学校 宇佐見 虎 士



見上げてみれば

三梨小学校

佐藤 香織



あつたらいいなこんな木

大館南小学校

蛇川 詞保



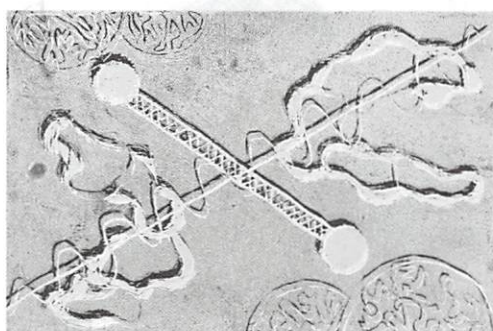
ウルトラミラクルでっかい花
秋大附属小学校 金正士朗



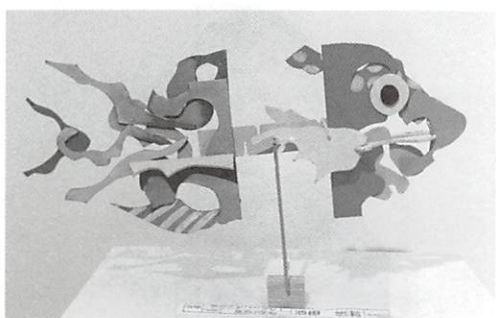
宇宙にある火山口で小鳥の旅行がスタート
四ツ小屋小学校 竹嶋 慧



歴史を重ねた三浦館
下新城小学校 中泉 琉豊



ミステリーな夜の世界
大住小学校 佐藤 桃香



海のナンバー1!
象潟小学校 池田 悠莉



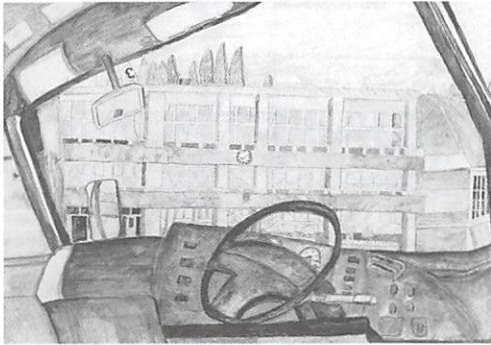
進め!ミカンのぐにゃぐにゃめいろ
東成瀬小学校 鈴木 野乃子



ふしぎな世界
 弘戸小学校 目黒 操



みんなの気持ちがハーモニーを生む場所
 平元小学校 木村 心 祝



いつも乗っているバスから見える学校
 鷹巣南小学校 布田 茉 穂



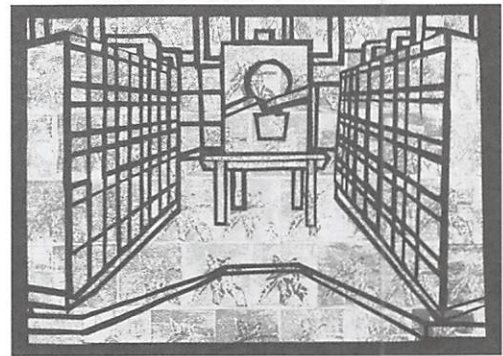
スノーカントリータウン
 東大曲小学校 野 中 嘉 紀

中学校作品

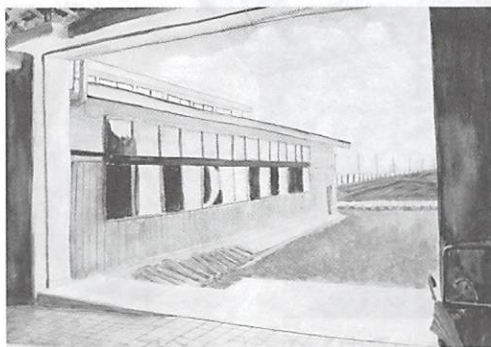


トモダチ

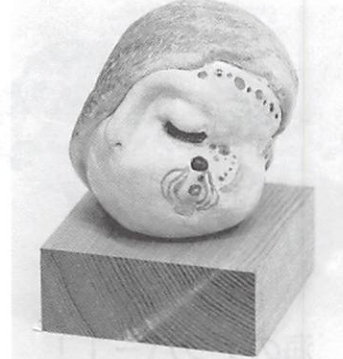
桜中学校 竹内 小春



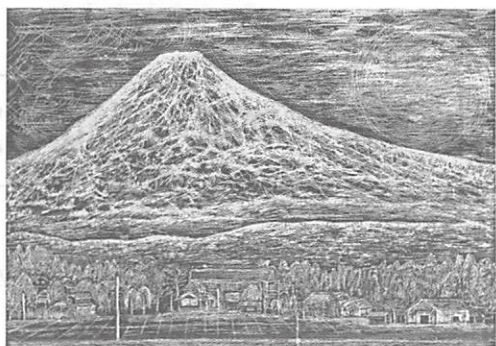
夕日に染まる生徒玄関
 花輪第一中学校 川 又 航 大



学校から出た瞬間
 常盤中学校 小林 京 慎



弘田の柵の神様たち「柚の神」～空間彫塑～
 仙北中学校 本 間 華 音



横手からみえる鳥海山
横手北中学校 吉田 叶



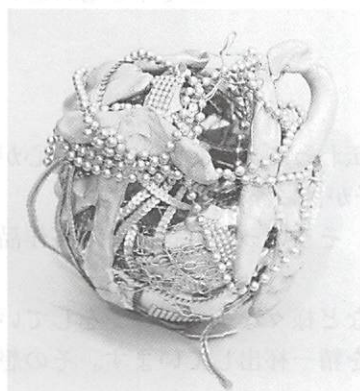
幻想
羽後中学校 高山 紀久恵



海の時間
西目中学校 渡辺 沙弥



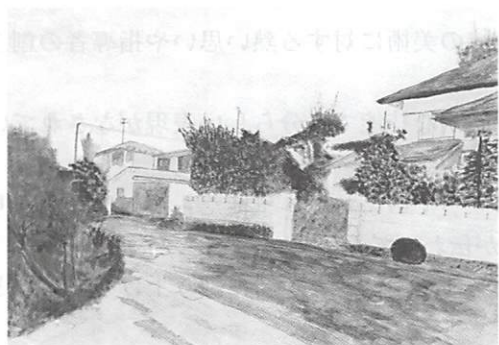
駆けぬける男
桜中学校 吉田 晴稀



カオスのアート
将軍野中学校 田村 嶺弥



最後まで
第一中学校 高橋 杏佳



帰り道
大潟中学校 村上 大悟



グラン・ギニョール
美郷中学校 長沢 光

平成26年度 第55回秋田県児童生徒美術展 総評（平面・立体の部）

【幼稚園・保育園の部】

幼児期の子どもの素晴らしい表現が大切にされ、描く楽しさを味わいながら製作してきたことが各作品から伝わってきます。

子どもたちの、のびのびとした表現が多く見られました。それらのよさをさらに引き出すために、幼稚園や保育園では、これからも様々な「体験」を大切にしていって欲しいものです。

【小学校低学年の部】

1年生の作品には、自分の好きなものを熱心に描き込んでいる作品が多く見られました。また、2年生の作品には、子どもの経験や思いが表れている多様な題材が見られました。大人が思いもよらないような色や形を、子どもたちは表現することがあります。この時期の子どもの素晴らしい発想を、今後も大切にしていきたいものです。

立体作品では、身の回りのものを上手に活用している作品が多く見られました。また、ダイナミックな表現の作品も多く、思わず目を奪われてしまうこともしばしばありました。

【小学校中学年の部】

夢が広がるような、用具や材料、技法などを工夫した豊かな表現の作品が多くみられました。今年度から久し振りに立体作品の応募が再開されましたが、出品も多く、材料からの発想を広げた楽しい作品が見られました。

中学年になると自分の思いをしっかりと表現したいという欲求も強まってきます。これらの作品を見ると、子どもの思いを引き出し、高められるような題材を設定していること、そして子どもの思いに対応した指導がなされてきたことがうかがえます。

【小学校高学年の部】

思い切りがよく、発想が大胆な作風が多く、作者の強い思いや伝わってきました。自分の心がひかれたものへの追求がなされていて、子どもたちが製作を楽しんでいる様子が目に浮かんできます。

指導者の先生たちが、様々な材料経験をさせているのでしょうか。そういった取組みを、各作品からうかがうことができます。

6年生は卒業学年でもあり、テーマの設定や技法、材料の選択など様々なチャレンジをしている作品が特に多く見られました。自分の描きたいものに対し、自分のもつ力を精一杯出しています。その思いが伝わってくる作品が、6年生らしさと言えましょう。

構図や、奥行きの出し方、色の塗り方の工夫などがきちんと対象を見てなされており、指導者が製作の楽しさを子どもたちに伝えていることが各作品から感じられました。

【中学校の部】

授業時数が削減されてきているが、力作が非常に多く、生徒の美術に対する熱い思いや指導者の創意や工夫が感じられました。

テーマ性を重視しながらも、構成や色の組み合わせなど、確かな技能で自分らしい表現がなされていました。

作品の中には、自分と地域との関わりを重視した作品が目立っていました。生徒たちが、自分を取り巻くいろいろな「人・もの・こと」に主体的に関わっていることが伝わってきます。

立体作品は、題材の捉えが幅広く、生徒の思いを生かすテーマを指導者と一緒に練り上げていることが感じられました。

平成26年度 秋田県造形教育研究会 役員

1	鹿 角	木 村 伸	尾去沢中学校	
2	大 館 北 秋	永 井 孝 久	山瀬小学校	
3	能 代 山 本	佐々木 彰 子	二ツ井小学校	副 会 長
4	男 鹿	鎌 田 悟	船越小学校	
5	潟 上 南 秋	加 藤 順 子	東湖小学校	
6	秋 田 市	佐 藤 一 彦	秋田北中学校	副 会 長
7	本 荘 ・ 由 利	田 村 稔	岩城中学校	
8	大 仙	高 橋 克 明	仙北中学校	副 会 長
9	横 手	黒 澤 正 尚	浅舞小学校	
10	湯 沢 雄 勝	芦 原 清 巳	三関小学校	会 長
11	監 事	加賀谷 政 広	雄和中学校	
12	監 事	工 藤 圭 文	港北小学校	
13	鹿 角	田 中 繁 子	尾去沢小学校	
14	大 館 北 秋	佐々木 亜希子	第一中学校	
15	能 代 山 本	渡 部 悦 子	東雲中学校	
16	男 鹿	伊 藤 覚	男鹿南中学校	
17	潟 上 南 秋	都 留 賀津人	天王南中学校	
18	秋 田 市	黒 沢 淳	泉小学校	
19	本 荘 ・ 由 利	木 内 衛	本荘東中学校	
20	大 仙	田 中 真二郎	西仙北中学校	
21	横 手	高 橋 輝 樹	横手北中学校	
22	湯 沢 雄 勝	三 浦 秀 巳	駒形小学校	
23	幹 事 長	小 野 哲	四ツ小屋小学校	事務局・ホームページ担当
24	副 幹 事 長	渡 部 英 明	河辺小学校	事 務 局 補 助
25	研 究 部 長	鎌 田 政 美	土崎中学校	
26	幹 事	佐 藤 未 樹	秋田東中学校	造 形 秋 田 主 担 当
27	幹 事	松 田 由紀子	御所野小学校	会 計 担 当

秋田県造形教育研究会事務局

〒010-1417 秋田県秋田市四ツ小屋街道東256-1

TEL 018-839-2050

FAX 018-839-2964

秋田市立四ツ小屋小学校

幹事長 小野 哲

